

ETAPTIP - No. 004J

プロジェクトビュー : Part 3 - スタディケース (Study Case)

適用できる ETAP のバージョン : 7.5.2

(これら以前のバージョンでは、以下の説明手順とは多少異なることがあります。)

これは、ETAP TIP - No. 002aJ & 002bJ (Part 1 : プレゼンテーション)、No. 003aJ & 003bJ (Part 2 : 系統構成) の続きです。

この説明の理解を深めるために、ETAP プログラムを立ち上げ、C:\ETAP 75X JP\Example-ANSI フォルダにあるプロジェクトファイル "Example-ANSI (ja-JP).OTI" を開いて下さい。(ここで C: は ETAP プログラムをインストールしたドライブ、ETAP75X JP は ETAP のバージョンです。)





ツールバーの配置・構成等については、ETAPTIP - No. 003aJ の "ツールバーマップ" を参照下さい。

3. スタディケース

短絡電流、ロードフロー、モータ加速解析などのスタディを実行する前に、最初に、スタディケースのデフォルト設定を、このプロジェクトのスタディに適した条件に変更することができます。この設定したスタディの解法とパラメータが、それぞれのスタディのプロセスで適用されます。言い換えれば、スタディケースは設定されたスタディの条件によって管理されると言えます。さらに、スタディケースを無制限に、幾つでも登録することができ、"もし、このよう場合は！ (What-If)" というシナリオの検討を行なうことができます。

"Example-ANSI.OTI"プロジェクトファイルにすでに設定されているスタディケースにしたがって、スタディケースがどのように動作するかを見てみましょう。


a) "Example-ANSI (ja-JP).OTI" のプロジェクトファイルを開きます。

b) "システム" ツールバーにある "単線結線図" アイコン  をクリックします。c) "モード" ツールバーにある "短絡解析" アイコン  をクリックして短絡解析モードをアクティブにします。注記: "モード" ツールバー の上部に "スタディケース" ツールバーに表示されます。図 1 参照d) "スタディケース" ドロップダウン リストから "IEC-Duty" を選択します。(このプロジェクトでは IEC のスタンダードで計算される "IEC-Duty" というスタディケースがあらかじめセットされています。) "スタディケースを編集" アイコン  をクリックして "短絡計算スタディケース" ダイアログボックスを開き、それぞれの設定を変更することができます。e) "スタディケースを編集" アイコン  の右にある "出力レポート" のドロップダウン リストから "IEC-Duty" を選択します。ETAP は、スタディケース (ステップ"d)、系統構成状態 (ETAP-TIP-003J 参照) および レビジョンデータ を選択し短絡解析を実行すると、その状態毎の出力レポートが作成されます。また、ドロップダウン リストからこのレポートファイルにアクセスし、同じツールバー上にある "レポートマネージャー" アイコン 、または画面右側にある "短絡計算ツールバー" の "レポートマネージャー" アイコン  をクリックしてレポートを開くことができます。


注記:

1. 新しいレポートファイルを作成したい時は、"出力レポート" のドロップダウンリストから "Prompt" を選択し、計算を実行します。
2. この場合、"出力レポート" ドロップダウンリストの右側にある "レポートフォーム" アイコンはアクティブになっていません。(図 1 参照)

知らなかった、ETAP のこんな機能！

- f) 以上で短絡解析を実行する準備ができました。“短絡計算ツールバー”の“3相装置責務を計算 (IEC 60909) を実行”アイコン  をクリックします。(通常画面右側にあります)
- g) この機能に慣れるために、ほかのスタディケース (例えば ANSI-Duty) についても操作してみましょう。

上記手順は、ロードフロー、モータ加速解析などのスタディを実行する時も同様です。



The screenshot shows a toolbar with several icons and dropdown menus. Red boxes with arrows point to specific icons, each with a label in Japanese:

- 新規スタディケースアイコン (New Study Case Icon)
- スタディケースを編集アイコン (Edit Study Case Icon)
- 出力レポートをリストアイコン (List Output Reports Icon)
- レポートマネージャーアイコン (Report Manager Icon)
- スタディケースドロップダウンリスト (Study Case Dropdown List)
- 出力レポートドロップダウンリスト (Output Reports Dropdown List)
- レポートフォーマットドロップダウンリスト (Report Format Dropdown List)

Below the toolbar, there is a list of icons and their corresponding descriptions:


新規スタディケースアイコン	- 新規スタディケースを作成する場合このボタンをクリックします。新規スタディケースは他の既存のスタディケースからコピーすることもできます。
スタディケースドロップダウンリスト	- このリストボックスからすでに作成したスタディケース名を選択できます。解析を実行すると、その実行されたスタディケース名が自動的に表示されます。
スタディケースを編集アイコン	- すでに作成されたスタディケースの設定の編集および確認する場合このボタンをクリックします。
出力レポートドロップダウンリスト	- このリストは以前作成した出力レポートファイルを選択し、同じツールバー上 または 通常画面右側にある”短絡計算ツールバー”にある”レポートマネージャー”アイコンをクリックしレポートファイルを開きます。(出力ファイルレポートのフォーマットは”レポートフォーマットドロップダウンリスト”で選択されたフォーマットで出力されます。)また、ETAP では解析を実行すると選択されたレポートが上書きされます。
出力レポートをリストアイコン	- このボタンをクリックすると、これまでに実行した全てのレポートのリストを開くことができます。このリストからこれ以上必要でないと考えられるレポートの削除をすることができます。
レポートフォーマットドロップダウンリスト	- ”レポートマネージャー”アイコンをクリックした時、このリストで選択されたフォーマットでレポートが出力されます。
レポートマネージャーアイコン	- このボタンをクリックすると、レポートフォーマットドロップダウンリストで選択されたフォーマットのレポートが出力されます。

図 1：スタディケース ツールバー

スタディケースを作成する方法として、2つの方法があります。ひとつは、“プロジェクト ビュー” ウィンドウから作成する方法、もう1つは、スタディモード (ロードフロー、短絡解析等) のどれかがアクティブの時 ”スタディケース” ツールバーから作成する方法です。なお、スタディケースの削除は ”プロジェクト ビュー” ウィンドウからのみ可能です。

”プロジェクト ビュー” にある ”スタディケース” フォルダから、スタディケースを 新規作成、編集および削除することができます。以下の手順でロードフロー プログラムの スタディケースを操作してみましょう。また、短絡電流解析、モータ加速解析など他のプログラムも同様に作業できます。

3.1 新たな "スタディケース" を作成 (Create) する

- システムツールバー (通常は画面の左に位置している) の "プロジェクトビュー" アイコン  をクリックします。
- "スタディケース" フォルダを拓げます。
- "スタディタイプ" フォルダ (ここではロードフロー) を右クリックし、ポップアップメニューの "新規作成" をクリックします。 図 2 参照

注記:

- ここで、スタディタイプのフォルダにある数字はすでに作成されているスタディケースの数を示します。
- 新しいスタディケースを作成すると "xxx - デフォルト" と表示されているスタディケースと同様の設定となり、スタディケース名はデフォルトのスタディケース名に整数 1 が加わったものになり、そのスタディケースを作成した数だけ増えていきます。

3.2 "スタディケース" を複製 (Copy) する

- 3.1 項の "スタディケース の新規作成" のステップ a) および b) と同じ操作します。
- スタディタイプフォルダ (ここではロードフロー) を拓げ、スタディケースを右クリックし、ここでは、"LF 100B" を選択し、ポップアップメニューの "複製" をクリックします。 図 3(a) 参照
- "コピー先" のテキストボックスに "LF 100C" と入力し、"OK" ボタンをクリックします。 図 3(b) 参照

3.3 "スタディケース" の名称を変更 (Rename) する

- 3.1 項の "スタディケース の新規作成" のステップ a) および b) と同じ操作します。
- スタディタイプフォルダ (ここではロードフロー) を拓げ、スタディケースを右クリックし、ここでは "LF 100C" を選択し、ポップアップメニューの "プロパティ..." をクリックします。 図 4 参照
- "ロードフロースタディケース" ダイアログボックスが表示されたら "情報" のページの "スタディケース ID" のテキストボックスに新しい ID を入力します。ここでは "LF-Break1" と入力し、"OK" ボタンをクリックします。 図 5 参照

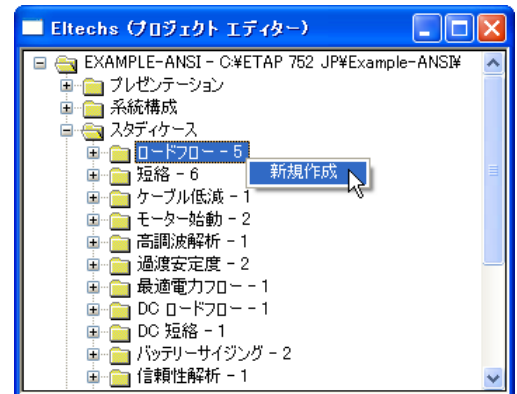
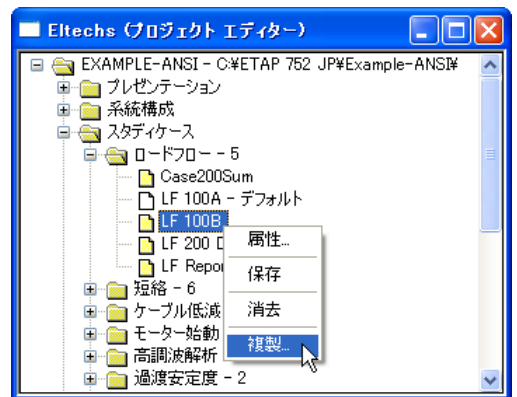
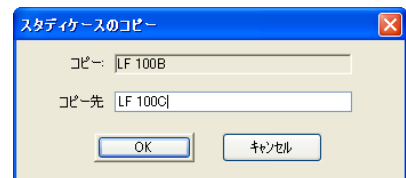


図 2 : スタディケース (新規作成)



(a)



(b)

図 3 : スタディケース (複製)

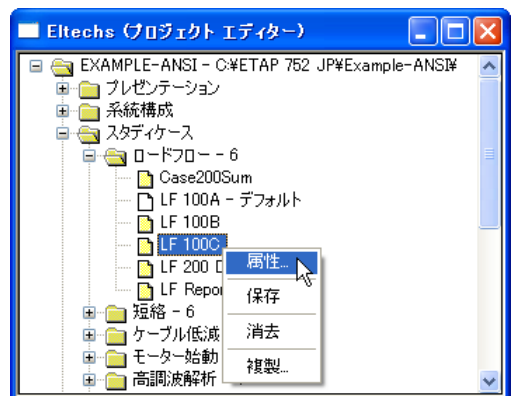


図 4 : スタディケース (名称の変更)

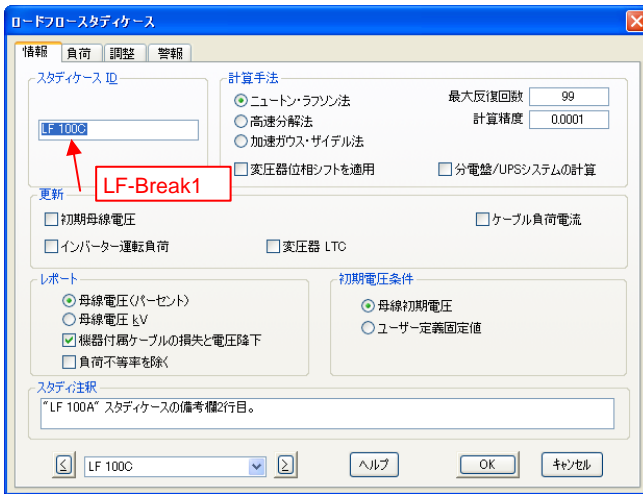


図 5 : スタディケース (名称の変更)

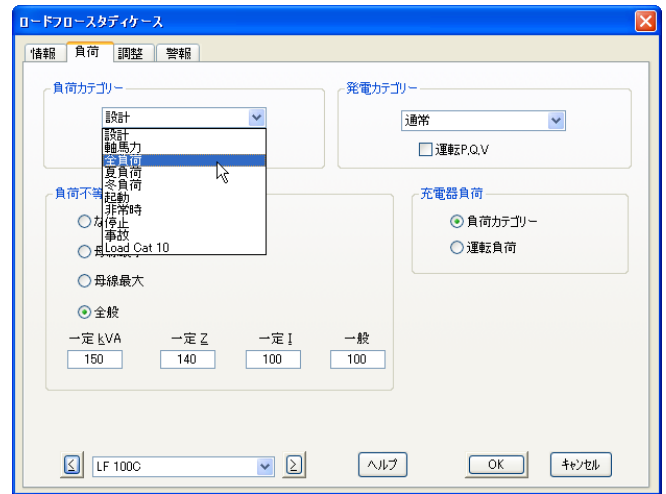
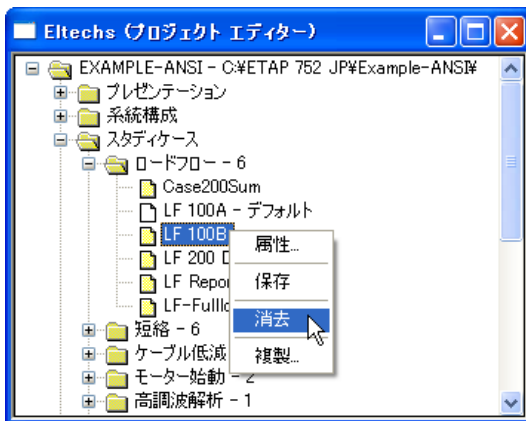


図 6 : スタディケース (設定の変更)



(a)



(b)

図 7 : スタディケース (削除)

3.4 "スタディケース" の設定を変更 (Change Settings) する

- 3.3項の“スタディケースの名称変更”のステップa) およびb)と同様の操作し、ステップc)でスタディケース名を“LF-Fullload”と入力します。
- “ロードフロースタディケース”ダイアログボックスで、必要な項目を変更します。ここでは“負荷”のページをクリックし、“負荷カテゴリ”を“全負荷”に変更し、“OK”ボタンをクリックします。 図6参照

注記 :

これは、“LF-Fullload”のスタディケースでロードフロー解析を実行した時、このプロジェクトで全ての負荷カテゴリを“全負荷”のパーセントカテゴリで計算することを意味します。

3.5 “スタディケース”を削除 (Delete) する

- 3.1項の“スタディケースの新規作成”のステップa) およびb)と同じ操作します。
- スタディタイプフォルダ (ここではロードフロー) を拡張し、スタディケースを右クリックし、ここでは、“LF 100B”を選択し、ポップアップメニューの“削除”をクリックします。
- 確認後、“はい” ボタンをクリックします。 図7参照

ETAPTIP – No. 005J : プロジェクトビュー : Part 4 - ライブラリ に続く